

委員提出意見

終末期医療の決定プロセスのあり方に関する検討会に対する意見

今までの2回の検討会を踏まえ、全日本病院協会の意見を申し上げます。

1. 終末期医療についてのパブリックコメントを求め意見が集まっているのに、急に決定プロセスのあり方の検討に変わるのは、国民に対する欺瞞ではあろう。
2. 決定プロセスについては、かなりの医療機関が認識しており、この時点で検討してもあまり意味が無く、あまり変わる事はない。
3. そもそも終末期とは何時からなのかの定義もあいまいであり、プロセスの前にそれを議論すべきではある。
4. 各委員の意見はまだ充分に出しつくされていないと思われる。座長が言われた、ソフトなガイドラインと言う意味は理解できるが、議論はタイトに深める必要がある。
5. 終末期医療の問題は非常に重要で、根が深く、幅も広い。今後医療界が音頭をとって、更に具体的なガイドラインを作成するにしても、国家のレベルでももっと時間をかけて（年単位）議論すべきである。

全日本病院協会常任理事 木村 厚